

中販連

だより

2021
Vol.62

指定生乳生産者団体 中国生乳販売農業協同組合連合会 機関誌



CONTENTS

- 令和3年度事業計画について（第18回臨時総会報告）
- 令和3年度生乳取引交渉について
- 指導映像資料（酪農専門チャンネル）の提供について
- 令和2年度生乳出荷実績等
- 事業経過報告

令和3年度事業計画について (第18回臨時総会報告)

当連合会は令和3年3月26日に第18回臨時総会を開催し(岡山県農業共済会館会議室)、令和3年度(以下「今年度」)の事業計画・収支予算案並びに事業運営に係る賦課金(手数料・生乳共同販売経費)及び預り金等について審議し原案通り可決決定されました。

以下に、その結果概要を報告いたします。

1. 基本方針

酪農乳業を巡る内外情勢を踏まえ、当連合会は創立22年度目の指定団体業務の運営に当たり、

- (i) 新型コロナウイルス禍がもたらす生乳需給影響への対応。
- (ii) 令和3年度の受託目標数量293,130t、前年比100.4%をベースとする増産の達成及び販売努力による乳価の安定。
- (iii) 令和3年度を基準に向こう5年間の指定団体組織及び業務の合理化方針としての「業務推進計画」の策定、国への提出。
- (iv) 個人別乳代精算システムの円滑な運用による事務作業の合理化。
- (v) 生乳の流通過程における新たな安全・安心確保対策としてHACCP手法を取り入れたCS管理体制の整備。

等を基軸とする事業に取り組むものとする。部署別の事業実施計画は次の通り。

2. 事業方針及び事業実施計画

(1)再生産可能な乳価の実現と乳脂肪取引基準の見直しについて

- ①新型コロナウイルスの終息が見通せない状況下において、不測の事態にも対応できるよう全国連との連携を密にし、管内生乳の全量処理に取り組む。
- ②令和3年度の乳価は据え置き決着となつたが、通常の販売業務において有利販売に努め生産者の手取り乳価の上昇に努める。
- ③令和3年度内に行う令和4年度(2022年度)乳価交渉については、副産物価格や飼料価格等の生産費の動向を踏まえ、再生産可能な乳価水準の確保及び今年12月末までの決着を目指した交渉に取り組む。

(2)生乳共販体制の維持強化について

生乳共販体制の維持・強化を期するため会員との連携の下に生産者に対し指定団体機能の理解促進に努め生乳受託契約の継続的な手交の促進を達成し受託数量の確保を通じ生乳取引の安定化を図る。

(3)第2次指定団体業務推進計画の策定と実行について

令和3年2月9日に発出された農林水産省生産局長通知「生乳流通体制の合理化の総合的な推進について」の一部改正における指定団体に対する指導事項に基づき、第2次業務推進計画の策定に着手し今年度内に中央酪農会議を経由して農水省に提出する。

(4)生乳の品質改善及び安全安心確保対策

- ①統一乳質評価テーブルの運用に合わせて実施してきた良質生乳出荷に係る指導・研修事業については、指導体制において乳質改善指導に精通した会員からの出向職員の帰任に伴い、当連合会における事業展開は一時中止する。今後の乳質改善事業について、当面の間は会員の所管事業として位置づけ常時視聴可能な動画資料等を教材とする事業展開により実効を期するものとする。
- ②戸乳検査成績において年間を通じて統一乳質評価テーブルの成分及び衛生的乳質基準値を上回る成績優秀生産者を褒賞制度に基づき表彰する。

- ③牛乳を巡る今日的課題としての風味問題について、試験研究機関における原因究明の成果を踏まえ酪農現場への周知及び消費者に対する風味変化に係る理解促進に努める。
- ④配分検査結果において風味変化要因とされるFFA（乳中遊離脂肪酸）及びBHB（乳中ケトン体）を乳成分値から判断し飼養管理の改善を通じて異常風味の発生の抑制を図る。

(5)受託見込み数量及び年間販売計画の設定

- ①令和3年度の政策価格等において加工原料乳補給金の総交付対象数量は345万t（前年度対比+5万t）、補給金8.26円/kg（前年度対比▲0.05円の引き下げ）、集送乳調整金2.59円/kg（前年度対比+0.05円の上昇）が決定された。
- ②当連合会は令和3年度の受託数量は293,130t（前年度見込み対比100.4%）を計画し取引先乳業者への安定供給に努める。このうち補給金及び集送乳調整金の対象となる乳製品向け数量については、コロナ禍で減少した業務筋の生クリーム需要の一定程度の回復を見込み12,227.1t（前年度見込み対比101.6%）を計画数量に設定する。

当連合会の乳製品向け計画数量に政策価格を適用した場合、補給金と集送乳調整金の合計交付単価は全生乳換算で約0.45円/kg（前年度対比約0.02円/kg増）と想定される。

(6)次期生乳生産基盤復元計画（第4期HOSTY計画）の策定

- ①2018～2020年度を期間とする第3期生乳生産基盤復元計画（第3期HOSTY計画）において目標数量とした300,000tへの復元は未達状態での収束となったことから2021～2023年度を期間とする第4期HOSTY計画においては300,000tの早期達成をベースに安定的な数量の上積みを目指すものとする。
第4期HOSTY計画の目標数量については国に提出する業務推進計画の策定において会員との検討経過を踏まえて設定する。
- ②第4期HOSTY計画における生産基盤の造成については会員が行う基盤対策事業と合わせJミルクが実施する酪農乳業産業基盤強化特別対策事業の活用及び当連合会における生乳生産基盤活性化対策資金による生産基盤維持拡大対策事業の継続実施により、経営者等の人的資源及び個体資源の確保を基本に達成と期するものとする。

(7)消費拡大事業関連

牛乳乳製品消費拡大活動についてはコロナ禍によりイベント自粛等により制約状態にあるが、生乳需給の緩和回避に当たっては消費拡大が最優先課題となることからは以下の事業に取り組むことを基本とする。

- ①国及び中央団体の主導により全国一斉に展開する消費拡大運動への組織を挙げた積極的な取り組みを行う。
- ②国産牛乳・乳製品の価値訴求を通じて需要の安定確保を期するため会員との連携による消費拡大活動を展開する。

(8)総務及び広報機能の強化

財務及び業務推進体制の強化策として

- ①令和2年度（前年度）から運用を始めた統一乳代精算システム並びに付随する乳量・乳質管理システム等の充実に努める。
- ②取引先乳業者への信用調査の実施、保証金及び担保の差し入れ等の債権保全措置の拡充に取り組む。また、当連合会自らも取引に係る不測の事態を想定し設置した「共販体制持続安定対策積立金」の積み増しに努める等。

令和3年度損益計算書

(単位:千円)

科 目	金 額		
1 事業総利益			86,308
(1)販売事業収益		1,868,244	
販売手数料	76,214		
全国連手数料	34,129		
共販事業収益	1,693,412		
生乳検査受託料	64,489		
(2)販売事業費用		1,781,936	
全国連手数料	34,129		
共販事業費用	1,692,415		
生乳検査委託料	55,392		
2 事業管理費			83,190
(1)人件費		49,832	
(2)業務費		16,299	
(3)諸税負担金		6,513	
(4)施設費		22,666	
(5)他勘定振替(システム償却費等相当)		-12,120	
事 業 利 益			3,118
3 事業外収益			137,620
(1)受入利息		10	
(2)雑収入		1,920	
(3)受入助成金		30	
(4)受入補助金		3,000	
(5)受入補給金・集送乳調整金		132,660	
4 事業外費用			133,170
(1)支払利息		10	
(2)寄付金		500	
(3)支払補給金・集送乳調整金		132,660	
事 業 外 利 益			4,450
経 常 利 益			7,568
税引前当期利益			7,568

令和3年度生乳受託販売事業に 係る負担経費等

1. 中国生乳販連の組織運営に係る経費

(1)中国生乳販連の組織運営費 (A) 【前年度同単価】

……生乳受託販売手数料

(2)生乳共販に係る業務運営費 (B) 【前年度同単価】

……生乳受託販売経費(集乳経費、送乳経費、CS経費、生乳検査経費)及び全国連再委託手数料

項目名	単価(円/kg)	前年比	対象用途	運用内容等
A 中販連販売手数料	0.260	±0	全生乳	組織運営に係る経費 (H21.10.1改正 0.1円引上)
5県販売経費	集乳経費	3.113	±0	全生乳 会員への業務委託により輸送業者に支払い (H31.4.1改正 0.2円引上)
	送乳経費	1.914	±0	全生乳 中販連が輸送業者に支払い (H31.4.1改正 0.3円引上)
	CS経費	0.740	±0	全生乳 中販連指定のCSを所有する会員等に支払い (H31.4.1改正 0.1円引上)
	生乳検査経費	0.140	±0	全生乳 岡山県畜産協会(検査委託先)に支払い
	全国連手数料	実費精算	実費精算	全生乳 中販連が再委託した生乳代金の0.3% 全生乳換算(試算値) : 令和2年11月末実績÷0.107円/kg
	B 小計	÷6.014	+0.008	全生乳 想定経費※ : 5.907+0.107÷6.014円 ※令和2年11月末実績の全国連手数料を適用して試算

参考 A+B : 全生乳換算(試算値) ÷6.274円/kg…………①

(注) 消費税の取り扱い : A及びBは外税。

2. 中国生乳販連が会員と連携して取り組む生乳生産基盤並びに生乳共販体制の維持強化対策、 生乳需給変動対策、自然災害対策及び酪農理解醸成活動等の事業に係る経費

(1)生産基盤活性化対策・生乳共販体制維持強化対策資金の運営 (C) 【前年度同単価】

- ………… ⑦生産基盤維持・拡大への対応
- ………… ①生乳共販体制の維持強化への対応
- ………… ②需給変動への対応
- ………… ①自然災害時の見舞金制度

(2)酪農理解醸成活動事業への取組 (D) 【前年度同単価】

項目名	単価(円/kg)	前年比	対象用途	運用内容等
C 生産基盤活性化・ 生乳共販体制 維持強化対策資金 (H30年度名称変更)	(0.120)	±0	全生乳	生産基盤維持拡大対応、生乳共販体制維持強化並びに 生乳需給変動対応 (生産基盤対策維持拡大対応予算に毎年3,000万円)
	(0.050)	±0	全生乳	自然災害による生乳廃棄に対する見舞金制度 (R2年度支出実績 単価 : 税込110.0円/kg、R3年度単価 : 税込110.66円/kg)
D 酪農理解醸成活動 事業	0.170	±0	全生乳	平成23年9月28日上記2事業への分離を制定
D 酪農理解醸成活動 事業	0.050	±0	飲用等向け※	乳価値上げへの理解訴求及び牛乳需要喚起等に係る経費 平成26年度より新規 (÷全生乳換算0.048円/kg)

参考 : 全生乳換算(試算値) ÷0.218円/kg…………②

(注) 消費税の取り扱い : Cは不課税。Dは内税。

中販連預り金 (C, D) については、年度終了後に未使用金を返還する。

3. 中央団体が行う全国の酪農組織が連携して取り組む事業への拠出 ……中央酪農会議並びにJミルク（日本酪農乳業協会）への拠出金

(1) 中央酪農会議拠出分 【前年度同単価を仮置き】

項目名	単価(円/kg)	前年比	対象用途	運用内容等
E 需給調整機能強化 全国支援事業	0.010	±0	全生乳	生乳供給情報システムサーバー維持・保守等
F 牛乳消費促進対策事業	0.100	±0	飲用等向け※	「MILK・JAPAN」事業。※全生乳換算0.097円/kg
G 酪農理解促進広報事業	0.040	±0	全生乳	酪農教育ファーム関連活動及び消費者交流等、 及びミルククラブ等を通じた情報発信
H BSE 対策及び残留 農薬対応酪農互助基金	0.010	±0	全生乳	ポジティブリスト管理物質定期的検査における被害農家の 損害補填、BSE 発生農家への経営継続等

参考：全生乳換算（試算値） ≈ 0.157円/kg……………③

（注）消費税の取り扱い：Hは不課税。E、F、Gは内税。

(2) Jミルク拠出分 【前年度同単価を仮置き】

項目名	単価(円/kg)	前年比	対象用途	運用内容等
I 飲用等向け	0.050	±0	飲用等向け※	※全生乳換算0.048円/kg
J 乳製品向け	0.020	±0	乳製品向け※	※全生乳換算0.001円/kg

参考：全生乳換算（試算値） ≈ 0.049円/kg……………④

（注）消費税の取り扱い：I及びJは内税。 ※中央団体の拠出金については、決定次第報告いたします。

4. 酪農政策施行に係る積立金の拠出金（事業参加者のみ） 【前年度と同単価を仮置】

項目名	単価(円/kg)	前年比	対象用途	運用内容等
K 加工原料乳等生産者 経営 安定対策	0.200	±0	乳製品向け※ （事業参加者） のみ	加工原料乳価格の低落時における補填基金事業。 任意加入。

参考：契約者全生乳換算（R2上期実績） ≈ 0.007円/kg

（注）消費税の取り扱い：Kは不課税 ◎本事業に係る積立金は毎月内示、拠出は四半期単位。

5. 控除・拠出金合計

控除実行の対象項目・単価及び対象用途等：A、B、C、D、F、G、H、I、J

＜参考＞ 全生乳換算合計（試算値） ①+②+③+④≈6.698円/kg

※全生乳換算（試算値）は全て令和2年11月末までの実績値で試算

※対象用途の説明 …………… 《飲用等向け》：飲用牛乳（含・学乳）+醸酵乳

《乳製品向け》：脱脂粉乳・バター等+チーズ+生クリーム

令和3年度生乳取引交渉について

理事会・生乳受託販売委員会報告

飲用等向け交渉

令和3年度の生乳取引交渉につきましては、令和2年11月開催の会員別生乳受託販売委員会並びに同11月18日開催の理事会において令和3年度生乳取引交渉方針を決定し、飲用等向け「現行価格以上」、乳製品向け「北海道の交渉結果を踏まえた交渉」を基本に乳業者との交渉にあたりました。

大手乳業者からは、12月に入り都府県の飲用等向けに対して、①新型コロナの影響による消費減は起きているが、売上減少をカバーするために値下げしてまで販促する考えはない。乳価値下げはむしろ業界全体にマイナスに影響する。②生乳生産費の動向において、酪農家への影響は軽微であり、たちまち乳価値上げの必要はないとの情勢判断から乳価については据え置き回答を提示、③令和3年度の生乳取引数量については、今年度並みの供給の維持、④他方、生乳需給上の課題について、学乳の休止等コロナ禍により乳製品在庫の積み増しが進行し出口対策（在庫削減）が急務な状況にあることの認識の共有等についての要請を受けました。

飲用等向け交渉については全国的にも大手乳業から据え置き回答が提示され、当連合会では令和2年12月18日に理事会を開催し、乳業の提示への応諾の方針をとりまとめ会員段階における生乳受託販売委員会に諮問し、応諾への意見集約を踏まえて令和3年1月22日開催の理事会にて据え置き回答の受け入れを組織決定しました。

飲用向けが中心となる当ブロックとしては、今年度の乳価は据置き基調となりますか、販売委員からの実質手取り乳価の上昇に向けた当連合会の販売努力への要請を受け止め、取引先との個別交渉及び日常業務における合理化努力等を通じてその実現に努める所存であります。

乳製品向け交渉

北海道における乳製品向け交渉については、莫大に積み上がった乳製品在庫と増産基調下での全量処理を巡り、大手乳業との交渉は長引くこととなりました。指定団体であるホクレンは、令和2年度には約12億円の在庫解消対策を決定、更には令和3年度においても輸入品への置き換え等に約80億円を生産者側が負担する独自対策を行うことで3月23日によく大手乳業と交渉が纏まり、乳製品向けの用途別価格については据え置きとなりました。

令和3年度用途別乳価交渉結果【総括】

3月末に北海道における乳製品向け交渉が建値据え置きで決着したことを受け、当連合会でも大手乳業と乳製品向け取引乳価を据え置くことを確認し、令和3年度交渉を終えました。結果としては、全用途据え置きで決着となりました。

指導映像資料(酪農専門チャンネル)の提供について

現在アップロードしている指導映像資料は全部で12本あり、当連合会HPの資料室に全ての動画URLをリンクして公開しております。

当動画は、酪農家の皆様の経営改善に、また、会員及び指導機関は担当職員の育成教材として有効活用して頂ければ幸いです。

その内の新たな4本の動画につきまして以下より紹介します。QRコードを掲載しますのでスマートフォンのQRコードリーダーをお持ちの方はご活用ください。

なお、以下の①～④チャンネルにつきましては、既に中販連だより2020Vol.60に掲載しておりますのでご参考ください。(QRコードのみ掲載します)。

①搾乳手技編 ②ミルカー洗浄編 ③ラクトコーダー編 ④暑熱対策編

◆搾乳手技編◆
(16分程度)



◆ミルカー洗浄編◆
(13分程度)



◆暑熱対策編◆
(22分程度)



◆ラクトコーダー編◆
(20分程度)



また、以下の⑤～⑧チャンネルにつきましては、中販連だより2020Vol.61に掲載しておりますのでご参考ください。(QRコードのみ掲載します)。

⑤低カルシウム編 ⑥脂肪酸組成編 ⑦検定員編(検定員向け) ⑧集乳者編(集乳者向け)

◆低カルシウム編◆
(20分程度)



◆脂肪酸編◆
(46分程度)



◆検定員編◆
(42分程度)



◆集乳者編◆
(33分程度)

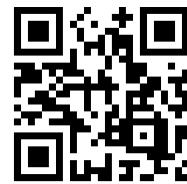


⑨牛群検定成績表の見方（基礎編）

<https://youtu.be/wFoawFe014s> (39分程度)

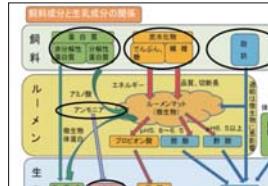
現場ですぐに使える牛群検定成績表の見方です。牛群検定情報の乳量・乳成分などについて留意する事や検定成績から見える問題点などを中心に説明しています。

◆検定成績表の見方(基礎)◆
(39分程度)



牛群検定成績表の見方(基礎編)

- ・検定成績の種類
- ・検定の乳量・乳成分
- ・検定の繁殖情報
- ・搾乳日数と標準乳量
- ・MUNについて

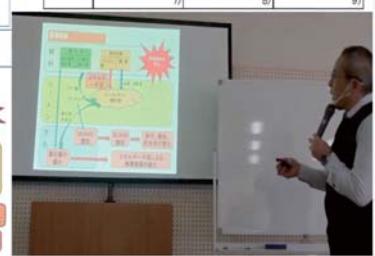


バルク乳で見る場合10~14程度が正常範囲

個体乳で見る場合8~16程度が正常範囲



乳蛋白質 (%)	MUN低 <10mg/dL	MUN良 10~14mg/dL	MUN高 >14mg/dL
<31	種、でんぶん不足 分解性蛋白不足	種、でんぶん不足 分解性蛋白過正	種、でんぶん不足 分解性蛋白過正
31~33	種、でんぶん適正 分解性蛋白不足	種、でんぶん適正 分解性蛋白過正	種、でんぶん適正 分解性蛋白過正
>33	種、でんぶん過剰 分解性蛋白不足	種、でんぶん過剰 分解性蛋白過正	種、でんぶん過剰 分解性蛋白過正



⑩牛群検定成績表の見方（基礎編Ⅱ）

<https://youtu.be/HPNUjpVhLj0> (46分程度)

現場ですぐに使える牛群検定成績表の見方の続編です。牛群検定情報から見るルーメンアシドーシスの発見方法や繁殖除籍の留意点などを中心に編集しています。また、新しい情報のBHB・FFAについてもその数字の意味と利用方法についても説明しています。

◆検定成績表の見方(基礎Ⅱ)◆
(46分程度)



牛群検定成績表の見方(基礎編Ⅱ)

- ・ルーメンアシドーシスを防げ
- ・繁殖成績を回せば経営が回る
- ・除籍理由について
- ・BHB・FFAについて



代表的な異常風味と発生要因



ランシッド(脂肪分解臭)について



通常に限りないほど脂肪酸によって脂肪細胞が膨張、脂肪が分解されたりなりたりして脂肪酸がやがくなるときに出るだけの「ランシッド」が発生することが要因!

①誘導型(リバーゼによるFFAの増加)



⑪改善事例乳房炎編

<https://youtu.be/QnZgjKVbDwl> (42分程度)

乳房炎の新規感染が続いている場合は、チェック項目☑でチェックしてみてください。改善事例では実際に現場で指導した事例を紹介していますので参考にしてください。

◆改善事例
(乳房炎編)◆
(42分程度)



改善事例(乳房炎編)

- ・乳房炎の新規感染を見る
- ・改善事例1
- ・改善事例2
- ・改善事例3
- ・その他の原因



新規感染が止まらない原因☒

- ①洗浄不良の確認
- 温度、濃度、水量、スラグが正常？
- パケットミルカーが洗浄できている？
- ルミテスター・ラクトコーダーで確認している？(後で詳しく説明)
- ②搾乳手技の確認
- 清拭タオルが乾燥している？
- 乳頭が汚れていない？
- 2分で装着できている？
- ③ミルカーの確認
- ライナーは定期的に交換できている？(3~6ヶ月)
- 脈動チューブにエア漏れが無い？
- 洗浄槽の汚れや残水は無い？
- ミルカーがブリッジに水平に乗っている？

⑫酪農家が乳質改善やってみたらこうなった

<https://youtu.be/u5H-T1NQ3NU> (35分程度)

この動画は岡山県との共同制作で、約2年間に亘って乳質改善を実践した酪農家とそれを支援した人達が作成したノンフィクションです。毎月1回のミーティングを開催して洗浄改善から搾乳手技改善までで実践を酪農家のインタビュー方式で撮影しています。この牧場では衛生的乳質は改善後には評価テーブルの最高位のSゾーンが達成できた成功事例です。

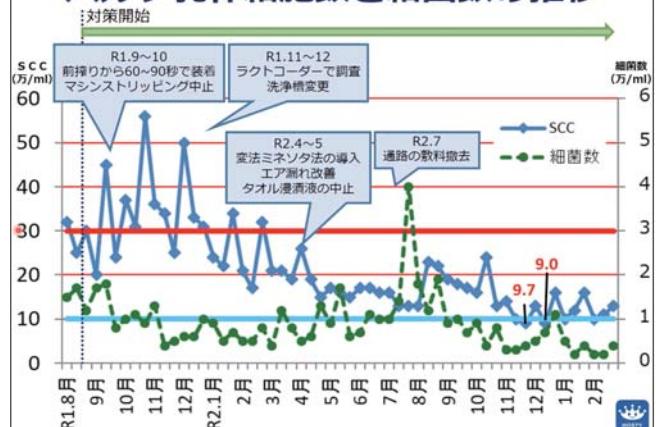
◆酪農家が乳質改善
やってみたら
こうなった◆
(35分程度)



酪農家が乳質改善 やってみたらこうなった



バルク乳体細胞数と細菌数の推移



1. 生乳受託実績の推移

(単位: t、%)

R2実績	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計	構成比	戸数
大山乳業	15,843	14,438	14,959	15,146	60,385	21.8%	108
内農家	15,710	14,308	14,817	15,005	59,840	(99.1%)	105
内公共	132	130	142	141	545	(0.9%)	3
JA島根	18,762	17,793	18,329	18,901	73,785	26.6%	83
内農家	18,697	17,717	18,253	18,826	73,494	(99.6%)	81
内公共	65	76	75	75	291	(0.4%)	2
おか酪	25,713	23,543	24,749	24,991	98,996	35.7%	190
内農家	25,223	23,058	24,275	24,542	97,098	(98.1%)	186
内公共	490	485	474	448	1,897	(1.9%)	4
広島県酪	10,950	11,430	11,465	11,667	45,512	16.4%	108
内農家	10,792	11,290	11,322	11,524	44,929	(98.7%)	104
内公共	158	139	143	143	583	(1.3%)	4
山口県酪	2,481	2,108	2,135	2,325	9,050	3.3%	31
内農家	2,465	2,096	2,117	2,301	8,979	(99.2%)	29
内公共	16	13	18	24	71	(0.8%)	2
防府酪農	1,289	1,198	1,304	1,319	5,110	1.8%	14
内農家	1,244	1,166	1,260	1,282	4,953	(96.9%)	13
内公共	45	32	44	36	157	(3.1%)	1
中販連計	75,039	70,510	72,940	74,349	292,838	105.7%	534
内農家	74,132	69,636	72,044	73,482	289,294	(98.8%)	518
内公共	907	874	896	867	3,544	(1.2%)	16

前年比	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計
大山乳業	105.1%	101.9%	101.5%	96.6%	101.2%
内農家	105.2%	101.8%	101.3%	96.5%	101.2%
内公共	97.6%	120.2%	118.8%	111.7%	111.4%
JA島根	111.0%	109.5%	109.6%	105.2%	108.8%
内農家	111.0%	109.4%	109.5%	105.1%	108.7%
内公共	104.6%	151.3%	176.9%	136.8%	138.9%
おか酪	112.2%	108.9%	106.8%	101.1%	107.1%
内農家	112.4%	109.0%	107.0%	101.3%	107.3%
内公共	104.2%	105.6%	99.3%	91.9%	100.2%
広島県酪	100.5%	108.7%	111.5%	110.1%	107.6%
内農家	100.6%	108.8%	111.9%	110.4%	107.8%
内公共	96.2%	98.0%	87.9%	91.8%	93.3%
山口県酪	95.2%	92.5%	90.4%	93.6%	93.0%
内農家	95.3%	92.6%	90.1%	93.2%	92.9%
内公共	89.5%	81.8%	131.1%	164.3%	114.3%
防府酪農	98.4%	97.2%	101.3%	99.7%	99.1%
内農家	98.1%	97.9%	102.0%	100.7%	99.7%
内公共	106.7%	77.6%	83.2%	73.3%	84.6%
中販連計	107.7%	106.8%	106.4%	102.2%	105.7%
内農家	107.7%	106.8%	106.4%	102.2%	105.7%
内公共	101.6%	107.2%	103.2%	97.6%	102.3%

※実績値は、令和2年度・令和1年度共に農家発乳量を使用。また共に5県の公共機関を含む。

2. 用途別販売実績の推移

(単位: t、%)

R2実績	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計	構成比
飲用向	51,956	48,749	49,290	50,417	200,413	68.4%
学乳向	3,779	5,154	6,725	5,973	21,631	7.4%
醸酵乳向	15,624	15,370	13,925	13,759	58,678	20.0%
生クリーム向	825	603	871	992	3,291	1.1%
チーズ向	79	98	101	88	367	0.1%
加工向	2,775	536	2,028	3,120	8,459	2.9%
合計	75,039	70,510	72,940	74,349	292,838	100.0%

前年比	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計
飲用向	114.2%	106.9%	109.2%	102.2%	108.0%
学乳向	65.1%	135.8%	104.6%	140.4%	106.6%
醸酵乳向	104.6%	103.2%	99.6%	99.5%	101.8%
生クリーム向	88.3%	76.9%	82.4%	93.4%	85.7%
チーズ向	83.8%	92.5%	98.8%	103.4%	94.4%
加工向	114.8%	60.5%	108.1%	74.0%	90.1%
合計	107.7%	106.8%	106.4%	102.2%	105.7%

※実績値は、令和2年度・令和1年度共に農家発乳量を使用。また共に5県の公共機関を含む。

※農家発乳量とメーカー着乳量の差分は飲用向けで調整。

3. 生乳需給実績の推移（域内・域外比率） (単位：%)

R2シェア率	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計
域内需要	86.9%	91.1%	89.1%	87.8%	88.7%
域外需要	13.1%	8.9%	10.9%	12.2%	11.3%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
前年比	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計
域内需要	100.0%	103.5%	102.4%	103.8%	102.4%
域外需要	218.7%	158.7%	156.6%	91.6%	141.5%
合 計	107.6%	106.8%	106.4%	102.2%	105.7%

※受託生乳について域内需要と域外需要の実績比率。 ※実績値はメーカー着乳量を使用

4. 令和2年度基準乳価の推移

(単位:t、円/kg)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計
R2	受託乳量(t)	75,039	70,510	72,940	74,349
	基 準 乳 価	114.4773	115.7846	115.1157	114.3149
	成 分 加 算	2.3844	2.0350	2.8744	2.9512
	補 給 金 等	0.5320	0.1904	0.4463	0.6129
	合 計 (a)	117.3937	118.0099	118.4364	117.8790
R1	受託乳量(t)	69,700	66,045	68,565	72,767
	基 準 乳 価	114.4844	114.5944	114.5960	113.1090
	成 分 加 算	2.1557	1.7822	2.5177	2.6841
	補 給 金	0.5425	0.2904	0.4842	0.7970
	合 計 (b)	117.1826	116.6670	117.5979	116.5901
前年との比較(a-b)	0.2111	1.3429	0.8385	1.2889	0.9182

※実績値は、令和2年度・令和1年度共に農家発乳量を使用。また共に5県の公共機関を含む。

※※表1から表4の各実績表において、端数処理により合計不一致の箇所あり

発行 ● 中国生乳販売農業協同組合連合会
編集・発行人 ● 澤井正史
〒700-0984 岡山県岡山市北区桑田町一番二〇号 岡山県農業共済会館四階

FAX TEL ○八六一三六一三三七一
○八六一三六一三三七一
URL http://www.dairy.co.jp/chugoku/

▼事業経過報告（令和二年一月～三月）

26日	25日	25日	23日	22日	19日	18日	17日	15日	12日	10日	8日	5日	3月	25日	24日	21日	15日	2月	22日	22日	1月
中酪・基礎調査担当者会議(Web)	中酪・実務責任者会議(Web)	中酪・実務責任者会議(Web)	中酪・実務責任者会議(Web)	中酪・実務責任者会議(Web)	中酪・酪農教育ファーム担当者会議(Web)	中酪・需給情報共有会議(Web)	中酪・臨時会員総会・理事会(Web)	中販連・第12回理事会(岡山市)	中酪・地域交流牧場全国連絡会合同会議(Web)	中酪・酪農理解醸成担当者会議(Web)	中酪・酪農理解醸成担当者会議(Web)	中酪・安全安心担当者会議(Web)	中酪・臨時総会(Web)	中酪・需給情報共有会議(Web)							

※(Web)はweb方式による会議